

とうもろこし新品種「交10号」について

副島四郎・野崎国彦・故松永義迪・高田康之
(宮崎県総合農業試験場都城支場)

SOEJIMA, S., NOZAKI, K., the late MATSUNAGA, Y., and TAKADA, Y.
A new Variety of Maize "Kō 10 Gō"

本品種は昭和45年から宮崎県で奨励品種に採用され、普及に移されることになったので、育成の経過および特性の概要をのべて参考に供したい。

来歴ならびに育成経過

昭和39年に宮崎県総合農業試験場都城支場において、「白石-1」を母とし、「千葉八街在来」を父として組合せたフリント種×デント種の一世代雑種である。昭和42年より「宮交3号」の系統名で関係県に配付して地方的適否を検討してきたもので、昭和45年とうもろこし農林交13号として登録され「交10号」と命名されたものである。

母の「白石-1」は昭和38年に熊本県阿蘇郡蘇陽町より収集した橙色のフリント種で、熟期は大デッチより3日ほど早く、すじ萎縮病にやや強い生育の旺盛な在来種である。父の千葉八街在来は同年長野県農業試験場より取寄せた白色粒のデント種で、熟期はWhite Dent Corn より約2日遅く、強程で生育の旺盛な品種である。

形態的特性

程長は交1号より長程で、着雌穂高もやや高い。雌穂はやや長く粒色は白・黄および橙色で、中粒のデント種がかったフリント種である。

生態的特性

熟期は交1号程度の中生種で、初期生育が良く下葉の枯上りが少ない。すじ萎縮病抵抗性は交1号並であり強くないが、耐倒伏性はやや強である。糊熟期の青刈収量は茎葉・雌穂ともに交1号にまさり、特に雌穂重歩合が高い。

適地および奨励品種採用県

配付先の試験結果および諸特性から関西以南の暖地における青刈・サイレージ用として広く好適すると思われる。宮崎県で奨励品種に採用され、交1号、White Dent Corn およびその他の品種の一部と

かわり県下全域に約700haの普及が見込まれている。

栽培上の注意

南九州は台風災害が著しいので3月下旬～5月上旬に早播きして、台風来襲以前に収穫する方が安全で多収が期待できる。また交1号程度の中生種であるが、暖地でも8月以降の晩播きでは糊熟期に達しないことがある。利用の面では雌穂の収量が多いので、若刈りするよりも糊熟期に収穫する方が有利である。耐倒伏性はWhite Dent Corn より強いが、交1号程度であるので極端な多窒素・密植栽培は避ける方がよい。

一 般 特 性

項 目	交 10 号	交 1 号	W. D. C.
雄 穂 抽 出 期	6.28	6.26	6.25
絹 糸 抽 出 期	7.6	7.4	7.4
程 長 (cm)	238.7	218.0	225.1
着 雌 穂 高 (cm)	137.0	115.9	119.5
程 の 太 さ (cm)	1.9	2.1	2.0
葉 長 (cm)	104.1	99.0	96.0
葉 巾 (cm)	10.8	10.7	10.6
倒 伏 抵 抗 性	中	中	やや弱
胡 麻 葉 枯 病 ヶ	中	中	中
す じ 萎 縮 病 ヶ	中	中	やや弱
下 葉 の 枯 上 り	微	少	少
α 当り雌穂重 (kg)	166.8	131.9	117.0
α 当り総収量 (kg)	557.3	473.7	476.0
調 査 地	宮崎県総合農試都城支場		
調 査 年 次	昭和41～44年平均		

(注) W, D, C, は White Dent Corn の略

命名の由来

一代雑種のとうもろこし品種には「交」を付して一連番号をつけることになっている。